

## 平成 27 年度 第 2 回伊勢原市介護保険運営協議会 会議録

〔事務局〕 保健福祉部 介護高齢福祉課

〔開催日時〕 平成 27 年 10 月 22 日（木曜日）午後 5 時 30 分から 7 時 30 分

〔開催場所〕 市役所 2 階 2 C 会議室

〔出席者〕

（委員） 西村委員長、野地副委員長、井上委員、西野委員、渡辺委員、山下委員、  
永野委員、上田委員、斎藤委員、麻生委員、宮崎委員、種村委員

（事務局） 坂間部長、小林課長、石川主幹、栗田副主幹、水谷副主幹、山内副主幹、  
中村主任主事

〔公開可否〕 公開

〔傍聴人〕 0 人

### 《審議の経過》

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

#### 3 議題

##### （1）協議事項 地域包括支援センターの評価について

（会長）

ただ今、事務局から説明がありました。御意見御質問がございましたら、お願いいたします。

（委員）

この案は、伊勢原市が作られたものですか、他の市に沿って作られたものですか。

（事務局）

他市のものを参考にしましたが、伊勢原市で作成したものです。

（委員）

資料 3 の地域包括支援センターの設置運営については、伊勢原市のものはありますか。

今後、伊勢原市独自の運用や附則を定める予定はありますか。伊勢原市版の運用規定を定めるとしたら、この通知に即した評価項目は少し違うのかなと思いますが。

（事務局）

地域包括支援事業の実施に関する基準条例を平成 27 年 3 月に制定しまして、基本方針や人員基準を定めました。運用については、国の通知に沿って運営しています。

新たに制定する予定はありません。

（会長）

基本的には、地域包括支援センター運営協議会が、地域包括支援センターに年度ごとの事業計画を立てさせ、業務の遂行状況を評価し、次年度の事業に反映させる等の必要があると書かれています。我々は、その事業計画が適切であるかの評価をしないとイケない。その計画に基づいて、成果が評価されるという形ですので、自己評価が出る前に、我々は、計画を吟味しておくというプロセスがあると思います。したがって、計画がないので、評

価項目にあった適切な年度目標なのかということは、今の段階ではわからない。

流れとしたら、我々が適正であると判断した計画に基づいて、業務が遂行され、それからチェックをする、そのような役回りだと思います。

(委員)

委託基準みたいなものはありますか。

(事務局)

委託運営基準としては、伊勢原市地域包括支援センター運営要綱により基準を定めています。

(委員)

地域包括支援センターの中身についてよく知らないといけないのかなと思いました。

(事務局)

地域包括支援センターの事業実績を年次でまとめています。そのまとめを元に、次年度の事業計画を立てています。事業計画は、介護保険事業計画に基づいています。

次回に資料を用意させていただいて、その内容をもとに評価の御検討をいただければと思います。

(会長)

計画が明示されないとイメージが湧かないと思いますので、実際の計画の中身を見ながら評価項目を検討していきたいと思います。あくまでも PDCA サイクルの中のチェックですので、まず計画を精査する必要があります。いろいろと皆さんから問題点を御指摘いただきましたので、実施は平成 28 年度からになりますので、検討をしていきましょう。

(委員)

PDCA サイクルが分かるスケジュールを記載したペーパーが一枚あると分かりやすいと思います。

(副会長)

シートの「その他」のところの認知症の専門医がよく分らないです。専門医といいますと、病院の精神科か心療内科の医師をいいますが、一般の内科医であれば、CT を撮って、認知症の疑いが有りということになれば、症状にあった認知症の薬を処方していると思います。既に治療していると思いますが、それでも、専門医でなければならないのかということなのですが。

(事務局)

認知症の早期発見ということで、地域で相談を受けていることは、家族が認知症の疑いを感じていても、本人に自覚がなく受診を拒絶される方のことです。かかりつけ医がいても、御本人が認知症ではないという認識をお持ちだと、治療に結びつかないことがあります。

かかりつけ医に上手に相談して、適切な医療機関へ紹介していただく、そういう相談が必要だと考えています。この項目は、平成 30 年度までに認知症初期集中支援チームを設置することを国も示してしまして、それを踏まえて、取組の進捗状況なども評価の対象とすると考えています。

(会長)

すべての項目には数値目標がたたないということですね。

(副会長)

この評価様式はそれぞれの一人の例に対して 1 シートなのか、全体として 1 シートなの  
でしょうか。

(事務局)

包括支援センターごとと考えています。一つの包括支援センターで取り組む事業の内容の  
評価として考えています。対象となる高齢者数が何人いて、そのうちの何人に対して事業が  
できたのかということではなくて、総体的な仕事量の中でどうであったのかという自己評価を  
していただくと考えています。

(委員)

自己評価の数値目標の母数は何ですか。

(事務局)

事業計画を立てるときに数値目標を立てていただきますが、それが母数になると思います。

(委員)

数字で図れる事業と図れない事業があります。数字で図れない場合は、ほぼ達成している  
とか、大体という表現ではいけないのでしょうか。

(事務局)

数値目標の方が評価しやすいということもあります。今回の案は、市役所で事業評価をす  
るときの例に合わせています。委託事業なので、今までの実績から 80%以上達成している  
事業が多かったので、対応できるのではないかと考えています。

(委員)

評価の段階について検討しないのですか。

(事務局)

数値化できないものは、「おおむね」などの表現等の方が分かりやすいのではないかと思  
います。

(委員)

各包括が事業の数値目標を設定するのではあれば、目標のレベルが変わってくるので、評  
価も変わってしまいます。一概に ABC と評価できなくなるのではないのでしょうか。

(事務局)

大枠は決まっておりますが、詳細の実施事業は包括によって違う状況があります。それ  
については、地域性を勘案した事業と捉えているので、一概に統一性を持たせることはどうな  
のかなと考えています。

(会長)

我々は、地域性の違いという点も含めて、計画のチェックをしなければいけません。

(委員)

数値で評価することがおかしいとは思っていないくて、例えば総合相談ですと、相談内容が  
多岐にわたっていて、相談内容をどう数値化するのか、100件の相談をしても、対応の中  
身が適切なのか、通り一遍なのかということによっても違うでしょうし、緊急時の対応など  
も、バックに特養等があって、関係機関と連携する前に、サービスにすぐにつなげられる場  
合があります。そうすると関係機関と連携をとらなかったということにもなります。中身が  
その項目によって、どちらでも使ってもよいようにしてもいいのかなと思いました。数値に  
すると業務の中身まで検討するところまでいかないのかなと思いました。

(会長)

地域包括支援センターの業務内容を我々の方で判断して評価できるような形にしてもらうには、しっかりと記載してもらわないといけない。ですが、評価をする上では、余りに中身の負担が多すぎると、お互いの負担になってしまいますね。

(副会長)

評価が 4 段階になっていますが、一般的には、60 %以上は合格でそれ以下は落第になります。ですが事業量が多くてそれを限られた時間で取り組むには、どうしてもミスもその中に含めて書くようになります。なので、書いてくれる人が書きやすく、またこちらも判断しやすいということを考えれば、「目一杯やった」、「普通にやった」、「落第」くらいでないと、変な操作をするようになってしまうのではないのでしょうか。

(会長)

A,B,C の三段階ですね。最後に C、D の評価の場合の改善策というところがありますね、他に御意見ありますか

(委員)

項目を減らすなどの検討の余地がありますか。

(事務局)

今回は、案として御提示しています。皆さんから貴重な御意見をいただきました。評価の段階の話や量的な話もいただきましたので、事務局で練り直して、御提示したいと思います。

(委員)

この項目が適切かどうかという参考となる基準がある対比しながら考えられると思います。

(事務局)

評価をしていただく段階では、資料をお出しします。計画の説明がありませんでしたので、難しい部分があったと思います。包括によっては、事業にばらつきが出るとお思いますので、包括が計画を立てた段階で、事務局がヒアリングをして、レベルを合わせてから、事業を実施し、自己評価をする。協議会が設定した評価項目に基づいて、協議会が評価をする方向でさせていただきたいと考えています。

(委員)

これが決まったら年に 1 回評価を継続的にしていくわけですね。実際に包括支援センターに行って内部資料を求めていくようなことも考えてられるのですか。

(事務局)

評価をするときには、4 包括の職員に出席していただいて、事務局で対応できないところは、包括の職員に答えていただくことも検討しています。

(委員)

包括支援センターの地域ケア会議の委員をしていて、包括の事業についても理解していますが、包括支援センターの方たちは、公平かつ中立的な運営をしていると評価されたいと望んでいると思いますし、この評価項目数は多いとは思いません。実施している事業内容を考えれば必要だと思います。

(会長)

網羅的な評価項目数となっていると思います。どんな項目数となるにしても網羅性は必

要だと思います。

(委員)

評価の基準の方が検討の余地があると思いますが。

(会長)

数値で表現ができるものは、判断理由等は必要ないかもしれません。逆に複数の指標が含まれていて評価しにくいものがありますので、ボリュームよりチェックのしやすさを優先するのと、必要なところだけ書き込めるようにするといいいのかもしれない。実際に書く人に書いてもらって、予備的なかたちですのもいいかもしれない。

(委員)

これらの項目は、皆さんやっつけられるだろうなと思います。4 包括にはそれぞれ特徴があって、地域性に対応しているとのお話がありましたが、事前にどのような特徴があるのかが分かってからと一律に 4 包括を並べて評価するというのでは、感じ方が違うと思います。

自分たちの特徴のアピールを書く場所があるといいと思います。

(会長)

包括自身が他の包括の取組を見て、比較したり自覚したりすることもいいのかもしれない。

(委員)

特徴を持ったところを伸ばしたいのか、平準化したいのかによって大分違うと思います。

(事務局)

包括の独自の取組については、その内容を皆さんに分かっていただいて、それが必要だといふのであれば、引き続き実施することもいいのではないかと思います。

その他の 6 にある包括支援センターの独自の取組については、様式を変えて一枚のシートにしてもいいかもしれない。

数値目標の設定は、人によって立て方が違う。調整しそろえることは非常に難しいです。皆さんに検討していただいて、練っていく中でいいものが作れたらと思います。

(委員)

権利擁護に関してですが、運用の資料には、成年後見制度の活用促進と書いてます。評価指標案の資料には、地域住民に啓発周知と表現されています。後見制度が必要だと関係者が知り得たのであれば、意図的積極的に成年後見制度の利用を促すことが促進だと思います。

また、相談に応じてという表現も受け身的な感じがしますので、消極的な感じがします。後見制度を使う必要性がある人には、積極的に促したという表現を入れていただければよろしいと思いました。

(事務局)

ただ今の御意見も含めまして、整理して、次回にお示しします。

(会長)

他に御意見ございますか。

(委員)

他市などには、運営協議会の評価の後に、包括が改善策を出すところもありますが、順番はこれで適切なのでしょうか。

(事務局)

協議会の意見を踏まえて、包括が改善策を出すという流れがあることは承知しています。

スケジュール調整との兼ね合いで、事前に改善策を立てた方が効率的ではないかと判断しました。

(会長)

単年度評価で、次年度に改善策をすぐさま反映できるのかということもあります。4段階評価であれば、CもDも改善策を書かなくてはなりません、3段階であれば、Cだけ改善策を書くということも可能ですね。

(委員)

Cだけが改善策を書くこともあります、BがAになるための改善策を考えるということもあるのではないのでしょうか。

(副会長)

CDで改善策を打ち立てられなかった場合に何かペナルティがあるのでしょうか。

(事務局)

考えていません。

(委員)

すべてがABCで評価する項目もあると思いますが、内容によっては、母数を確認したいものもあります。例えば、認知症の早期発見して専門医につなぐという項目では、必要とするケースが何件あるのか、そのうち専門医につなげられたケースは何件だったのかということも知りたいところです。

(会長)

うまく計画とつなげていただきたいと思います。数字だけで中身が評価できるのかということもあります。

(委員)

分母がないと評価にならないですね。

(会長)

それでは、いろいろと御意見がありましたが、事務局で検討していただきたいと思います。それでは、次の議題、平成26年度決算報告について説明をお願いいたします。

(事務局)

(2) 報告事項 平成26年度決算報告について

(会長)

これに関しまして、事務局から報告をお願いいたします。

(事務局) 平成26年度決算報告について、説明

(会長)

ただ今の報告について、何かご質問等ございますでしょうか。

特になしということよろしいでしょうか。それでは、議案の3件目、介護保険認定状況等について事務局説明をお願いします。

(事務局) 介護保険認定状況について、説明

(会長)

ただ今の報告について、何かご質問ありませんか。

特になしということよろしいでしょうか。それでは、その他事項がありましたら、事務局からお願いします。

(事務局)

それでは、前回の介護保険運営協議会で御報告をいたしました、特定施設入居者生活介護事業所の選定結果につきまして、株式会社川島コーポレーション、木下の介護、マザーライクホールディングスを選定しました。場所は、川島コーポレーションは、神戸の比々多農協付近、木下の介護は、成瀬中学校の近く、マザーホールディングスは、上粕屋のキャノンの跡地になります。

次に、次回の運営協議会は 12 月に予定をいたしております。開催日時につきましては、改めて御連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

他にないようでしたら、すべて議題は終了いたしましたので、議長役を終わらせていただきます。進行に御協力いただきましてありがとうございました。それでは、事務局に進行をお渡ししたいと思います。

(事務局)

西村会長 議事進行ありがとうございました。それでは、閉会の御挨拶を野地副会長にお願いいたします。

## 8 閉会

(副会長)

本日は皆さま、闊達なご意見をいただきありがとうございました。これで、本日の会議を閉会したいと思います。

以上